

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果より

我孫子市立湖北台西小学校

平成27年4月21日実施6年生56名（4名欠）

◎学力について

問題A：主に「知識」に関する問題

問題B：主に「活用」に関する問題

1 平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果

① 自校の取組の成果

- ・国語A問題では、県平均との差が縮まってきている。
←全学年共通の家庭学習として、毎日音読に取り組んだ成果といえる。
基礎的な読解力がついてきている。また、漢字の読み方も身につけてきている。
- ・算数A問題の平均得点率が他と比べると高い。
←少人数指導とTTによる個別指導で、基礎的な課題には、全員が取り組めるようになったことの成果といえる。
個別指導では、休み時間や、放課後学習の時間も活用して、担任やスクールサポーターと教員が最後まで子どもの学習に寄り添うことで、基礎学力をつけている。

② 結果から見えてきた課題

- ・国語、算数ともに、B問題の得点率が低い。
←家庭学習では「一人で取り組めるもの」を課題としており、基礎的な練習問題には対応できるが、応用力がつかない。
←学校での学習も基礎基本の定着を優先にしているため、発展的で応用的な学習課題に取り組む時間が少ない。
←児童の人間関係づくりに時間がかかる場合が多く、考えを広げたり、深めたりするための学習活動が難しい。そのため、学力差を埋められない。

2 今後の取り組みの重点

① 家庭学習の継続から一歩先へ

今までの家庭学習に、予習となる課題を加える。例えば、次時の学習内容を音読し、着目すべきところに線を引くなど。このことにより、基礎的な学習の定着の時短を図る。そうすることで、学校で発展的、応用的な学習に取り組む時間を増やす。

② 発展的、応用的な授業への改善

授業と関連付けた課題を家庭学習とする。このことで、一層家庭学習の意欲を高めると同時に学校での学習の意欲も高める。さらに、各教科において、1時間の中に基礎的な内容と応用的な内容の両方を取り入れた学習計画を立てて実践する。B問題のような負荷がかかる問題にも取り組ませ、問題に慣れさせる。

③ 学び合う学習集団を育てる学級経営

教師と児童の人間関係づくりを前提とし、児童同士のより良い人間関係を築く学級経営を行う。学習中に多くの友だちの考えに触れ、自分の考えを広げたり、深めたりすることにつながるために、学習中と生活のあらゆる場で、お互いの考えを認め合える人間関係を構築する。学び合う学習集団を育てることで、児童間の学力差を縮めて、集団としての学力向上を目指す。

